

第35回地方港湾審議会 議事概要

平成30年1月16日（火）10：00～12：00
於：高知共済会館3F「桜」

■須崎港港湾計画改訂（案）に対する意見

内容	発言者
今回計画において、貨物量が増えると推計しているが、今後の需要等についてはいかがか？	委員
（回答） 国内需要については東京オリンピック以降のびることは難しいと思われる。企業は今後海外市場を拡大していく意向である。 そのため大水深岸壁を整備することで、物流コストの削減を図り、競争力の強化を図っていきたいと考えている。	事務局
世界的に船舶が大型化している中で、須崎港においてはどのような障害があるか？	委員
（回答） 大型船で輸送できる他国と須崎港を比べると物流コストにおいて大きな差があり、価格競争において不利である。 須崎港には既存岸壁能力を超える船舶も多く入港しており、潮待ちなど喫水調整を行っていることから待船が発生するなど、非効率な荷役状況となっている。	事務局
耐震強化岸壁について、既存の岸壁を有効利用することによるメリットはどのようなものか？	委員
（回答） この既存岸壁について耐震性を確認しており、多少の改良を行うことで耐震強化岸壁として供用できることから新たに作るより経済的である。	事務局
須崎港を今後も利用していくであろう企業の戦略や要望と今回の港湾計画は整合性がとれているのか？	委員
（回答） 須崎港を利用している企業に対して県からヒアリングを行っており、また要望も受けている。それに対応した計画を作成している。 この計画によって、競争力の強化が図れ、須崎全体の経済の発展につながると考えている。	事務局